

国際課活動レポート

◆インドネシア・香港知事訪問（4月16日～4月22日）

仁坂知事は、インドネシア（ジャカルタ、アチェ州）及び香港を訪れ、経済交流の拡大や誘客を図るため、視察や講演、面談や共同声明の発表、トッププロモーションを行いました。

◆インド・マハラシュトラ州観光大臣来県（4月19日～23日）

和歌山県とインド・マハラシュトラ州の交流の一環として、同州の英雄であるアンベードカル博士の銅像が昨年9月に高野山大学に建立されました。この銅像にちなんで、4月21日、同大学でアンベードカル博士の生誕記念式典が行われ、マハラシュトラ州からラム・シンデ観光大臣が出席しました。式典では、高野山大学と交流関係にあるババサヘブ・アンベードカル・マラサワダ大学のラグレイ教授の記念講演などが行われました。



◆シアトル紀州クラブ来県（5月11日～16日）



昨年設立110周年を迎えた最も歴史ある海外県人会組織であるシアトル紀州クラブの皆さんが来県されました。県内各地を巡り、故郷を懐かしむとともに、来県の大きな目的であるレイディ・ワシントン号にゆかりの串本町を訪問されました。今年はレイディ・ワシントン号の串本来航から225周年となるため、その歴史を伝える日米修好記念館へ、精巧なレプリカがあるシアトル近郊のグレイスハーバーからの記念品を届けてくださいました。

※レイディ・ワシントン号…ペリーの黒船来港より62年も前に大島に上陸したアメリカ船。公文書に記録された初めての日米間の接触とされている。

※日米修交記念館

<<http://www.kankou-kushimoto.jp/miryoku/syukoukan.html>>

◆山東省人民代表大会訪日代表団来県（5月17日）

山東省人民代表大会訪日代表団が来県し、県庁表敬訪問を行いました。和歌山県からは県の外国人観光客招致、今後の展開について紹介しました。初来日の団長陳樹びん氏は、日本・和歌山県の美しい景色、綺麗な街に感動したと感想を述べ、帰国後は日本での体験を伝えていきたいと語りました。

文化紹介

◎今回は国際課に勤務する中国語交流員、黄家玉による文化紹介です。

ちまき 『粽を食べる習慣の由来』



中国では端午の節句に粽を食べる習慣があります。なぜ粽を食べるかと言いますと…。

はるか昔、2300年ほど前の中国に一人の詩人がいました。名を屈原と言います。王の側近として仕えていた屈原は、多くの人から愛されていたのですが、陰謀によってその地位を失うこととなります。このことにショックを受けた屈原は、5月5日に汨羅という川に身を投げ、自ら命を絶ちます。国民たちは、川に沈んだ彼の身体が魚に食べられてしまうのを防ぐために、船の上から魚たちを追い払いました。また、吊うために供物を投げ入れる者もいたそうです。しかし、川には供物を盗む龍が存在し、供物が彼の元へ届くことはありませんでした。どうにか彼のもとへと供物を届けようと考えた国民たちは、もち米を龍が苦手になっている楝樹の葉で包むことを思いつきます。それをさらに邪気を払う五色の糸で縛って川に流したら、龍に盗まれることも無く、無事に彼のもとに届いたそうです。

現在、中国では、地方によって粽の形、材料がちがいます。味付けも全然違います、甘い、辛い、塩辛い…もし端午の節句前後に、中国に行かれたら、是非、粽を食べてみて下さい。



異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

皆さん、こんにちは。和歌山県から中国・山東省に派遣されている梶本と申します。今回の異文化体験記では、皆さんに山東省濰坊市（いぼうし）について簡単にご紹介させていただきます。

濰坊市は山東省の中心部に位置し、面積 15,859 km² 人口約 850 万人を擁しています。昨年9月末にここ濰坊市で中日韓産業博覧会というイベントが開催され、この運営に携わるために昨年8月、9月の2ヶ月間濰坊市に滞在し、濰坊市政府で研修を受ける機会をいただきました。



初めて濰坊市を訪問してまず驚いたのが写真の光景です。電車で濰坊市に向かったのですが、濰坊駅が近づくにつれて車窓には視界に収まりきれない一面のビニールハウスが広がりました。

山東省は中国国内第一位の農業生産額を誇る農業省であり、その中で野菜の一大産地となっているのがここ濰坊市です。濰坊市ではこれら農業用ハウスを活用して年間を通して様々な野菜が生産されており、毎日約4万tもの野菜が全国各地に出荷されています。現地政府の方のお話によると、北京市で1日に消費される野菜のうち約半分は濰坊市から出荷されているというから驚きです。

また、濰坊市では毎年4月中旬から5月中旬まで中国国際野菜科学技術博覧会が開催されており、私も先月久しぶりに濰坊市を訪問して博覧会を見学してきました。博覧会では多くの新品種の農産物や農業の最新技術が展示されるとともに、様々な生の野菜を使って世界各地の風景がオブジェとして表現されており、会期中は毎日10万人近くの来場者で賑わったそうです。



濰坊市は宮崎県日向市と姉妹都市を結んでおり、今年で姉妹都市提携30周年を迎えます。今回濰坊市を訪問したのが熊本地震発生後で、こちらでも震災が大きく報道されたこともあり、濰坊市の方からも被災地や日向市の方を心配するたくさんの声や寄付を行ったというお話をお聞きしました。善意に感激するとともに、地域間の繋がりの深さを強く感じました。

〈梶本堅史郎（平成28年4月より山東国際海峡旅行社にて民間企業研修中）〉

ゲストコラム

◎和歌山県内在住の外国人の方や、和歌山県を訪れた外国人の方に和歌山や出身地についてご紹介いただくコーナーです。



名前 Jonguk Lim (ジョンウク・イム)

和歌山へ来た理由 JET プログラムで和歌山県・那智勝浦町へ配属となったため。

JET プログラムへは、日本語能力を伸ばすこと、日本でたくさんの友人を作ることを目的に参加。2015年8月より那智勝浦町在住。

職業 ALT (外国語指導助手) 那智勝浦町内の中学校で英語を教えています。また、英会話教室や観光パンフレットの翻訳などのボランティアも。

出身地 アメリカ合衆国ルイジアナ州

ルイジアナ州は、アメリカの南部に位置し、和歌山のように湿度が高いです。しかし、ルイジアナには山がなく、文化はスペイン、フランス、先住民、アフリカの影響を強く受けています。和歌山は有田のみかんや柑橘、那智勝浦のマグロが有名ですが、ルイジアナ州はエビとジャズ音楽が有名です。



和歌山の魅力

私は韓国系アメリカ人で、基本的な知識だけで来日しました。関西空港から4時間かけて高速道路を南下し、那智勝浦町に向かいました。日本語があまりわからず、ドライブ中に上司が言ったことはあまり覚えていませんが、風の吹く道、素晴らしい景色、美しい海岸線などの言葉を覚えています。これらの描写は今でも特急電車の車窓から和歌山の美しい海岸沿いの景色を見るたびに思い出し共感しています。



那智勝浦でのALTとしての経験は素晴らしいもので、日本に対する印象が大きく変わりました。また、田舎や日本文化の精神的・文化的側面を好むようになりました。那智勝浦は小さな町なので、多くの魅力的で親切な地元の方たちと触れ合うことができます。和歌山では気候だけでなく、日本人の心の“暖かさ”にも触れることができます。

那智勝浦では毎日が冒険です。色川中学校行きのバスからは、有名な茶畑が見られますし、下里中学校行きの電車からは美しいホテル浦島の眺めや太地駅に描かれたクジラの絵を見ることができます。和歌山県内を巡って、たくさんの素晴らしい事実を知ることができました。合気道の創設者が田辺出身であること、真言宗の総本山が高野山にあること、熊野古道と呼ばれる紀伊半島の参詣道が熊野三山へとつながっていることなどです。そして何よりも、日本一の落差を誇る那智の滝が那智勝浦町にあることです！

メッセージ

テクノロジー・大都市・ポップカルチャーといった大阪や東京の魅力とは異なり、和歌山県には宗教的・精神的な重要性があると思います。世界遺産の登録によって、旅行客も増えています。和歌山は田舎ですが、日本一のラーメンがある和歌山市のような大きなまちもあります。まだ、この素晴らしい那智勝浦・和歌山のすべてを見ることができていないのですが、ハイキング・参詣・温泉・おいしい食べ物などを愛する人にとって、和歌山は魅力的な場所だと思います。